

建設経済委員会行政視察報告書

1. 実施日 平成 21 年 10 月 26 日（月）～10 月 27 日（火）
2. 視察地 1）群馬県太田市 （10 月 26 日）
2）栃木県宇都宮市（10 月 27 日）
3. 視察項目 1）太田市「太陽光発電システム導入と奨励金について」
2）宇都宮市「アグリビジネス創出事業について」
4. 出席者 建設経済委員会
委員長 渡辺 重造
副委員長 天羽 良明
委員 亀谷 光・山根 一男・小村 昌弘
川上 文浩・野呂 和久
議会事務局書記 角南 玲子

5. 視察結果報告 （群馬県太田市）

（1）視察地の概要

平成 17 年 3 月 28 日の 1 市 3 町による合併により誕生した太田市は、群馬県東部の東経 139° 北緯 36°、また東京都心から 80 km 圏の関東平野西部に位置し、東武鉄道を利用すると 1 時間 20 分の位置にある。

地勢は、海拔 235.8 m の金山と、それに連なる丘陵が北西に走るほかは、全て標高 30 m～40 m の肥よくな平野である。気温は、比較的温暖で平均気温は 14℃～15℃。夏は雷雨が発生し、冬は北西の季節風が吹き、四季を通じて晴天に恵まれている。

面積 176.49 km² 人口 220,078 人 83,987 世帯。

日照時間 2000 時間と恵まれている。CO₂ 対策目標として、平成 16 年時点より平成 28 年は 14.3% 削減をめざして動き出している。

具体的な目標として、平成 19 年より毎年 150 棟に太陽光パネルを設置しているとしている。

4 kW×150 棟＝最大出力 600 kW 設置で、平成 28 年までやってみようという取り組みをしている。

(2) 視察の目的

本市として、地球温暖化対策に5000万円の予算を計上し取り組んでいく中、国においては、平成21年11月より太陽光を利用して家庭などで発電した電力の余剰分を電力会社が従来の約2倍の価格で買い取る新たな制度が施行される。(温室効果ガスの排出を抑える太陽光発電を普及させるのが狙いであり、来春より買い取り費用は、全世帯に転嫁し電気料金に上乗せする仕組み)

本委員会としては、地球規模の取り組みにどう向き合うのかを、太田市環境基本計画の具体的な取り組み事例を視察し考えていきたい。

(3) 視察の内容

○太陽光発電システム導入奨励金について(環境政策課)



太田市で説明を受ける委員

太田市では、住宅に太陽光発電システムを設置した方に対し、奨励金として太田市金券を支給し地域経済の活性化を促進している。

太陽光発電システム導入奨励金支給申請書などの説明の後、奨励金支給実績(太陽光発電システム導入実績)の説明があった。

奨励金の額

最大出力	1 k w 以上～	2 k w	支給額	6 万円
	2 k w 以上～	3 k w		1 2 万円
	3 k w 以上～	4 k w		1 8 万円
	4 k w 以上			2 4 万円

※最大出力とは、日本工業規格に規定される太陽電池の公称最大出力をいう。

手続きの流れ

太陽光システムの設置 ⇒ 奨励金申請 ⇒ 審査 ⇒ 奨励金支給
⇒ 定期報告書の提出(2年間)

※今後の環境施策の推進のため、太陽光発電システム導入奨励金受給者に対し、太陽光発電システム設置後2年間の定期報告書の提出をお願いしている。

○パルタウン城西の杜の太陽光発電システムについて(用地管理課)

市役所より2 km(車で7分)の距離にある太田市城西町の40.9 haを、平成11年度から平成20年度で、777区画に分譲宅地として、事業主体である太

田市土地開発公社が「安全・自然・環境」をコンセプトとして売り出した。ここでは、実証研究のため、設置費負担なしで屋根に太陽光パネルを設置することをお願いしている。

販売価格 平均 167,700円 / 坪 1区画 平均 77坪
(市役所周辺の相場 160,000円 / 坪)
分譲経過 平成21年4月1日現在 販売率 98%

太陽光発電システムの実証研究とは・・・

研究目的 太陽光発電システム（以下、PVシステム）の普及拡大に資することを目的として、PVシステムが特定の配電系統に集中連携された場合の、システム性能や配電系統への影響を明らかにするとともに、汎用的な対策技術を開発する。

研究団体 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
(NEDO技術開発機構)

事業規模 予算総額 約97億円

研究期間 平成14年12月から平成20年3月末まで

※PVシステム一式を、全額国の研究費にて設置でき、発電した電気は住民が使用できる。



パルタウン城西の杜を現地視察

(4) 質疑応答

Q：パルタウンの始まりは？

A：県より市に依頼があった。運よく、NEDO技術研究とマッチした。

20年まではNEDOでメンテナンスを行い、21年より市が行う。

Q：日照時間の年間2000時間は、どうなのか？

A：全国平均1500時間であり有利である。

Q：公共施設への設置状況は？

A：138kW／日。現在11施設しかないが、今後増やしたい。(全体で300施設)

Q：太陽光以外の環境への取り組みは？

A：少しグリーン作戦をしている。その他、給湯器設置補助4万円を行っている。

Q：金券は？

A：市内事業所で買い物や消費にまわっている。

Q：市民の声は？

A：アンケートを実施し分析する。

(5) 考察(まとめ)

クローズアップされていく各自治体の地球温暖化への取り組みを考える上で、とても参考になった。市民の環境への意識が向上していく中、本市として「何に取り組んでいる。何が特徴である。」と胸を張って市民に公表し、地球を守る活動に協力を求め導いていくことができるだろうか？

可児市環境フェスタにおいて、「CO₂削減を考えて、家庭でも省エネに気をつけるようになった。」と小学生の発表があった。

環境を考える尺度は、長く持ち、常に新しいものを検討し取り入れながら対応していかなければならない。

最後に、太田市が平成28年まで150棟設置を目標に進んでいく未来を見守りつつ、本市が平成28年までに他県・他市より環境の先進事例として誇れるものに取り組んでいることを夢に見ながら、そうあるべきだと強く感じた。

6. 視察結果報告 (宇都宮市)

(1) 視察地の概要

ギョーザの街・宇都宮というイメージがあったが、市の若手職員の発想から出来上がったものだったと伺い、驚いた。「日本一美味しい」とは宇都宮職員は言わないが、市民は年間5000円分ほど食べるという。とにかく「ギョーザ日本一」という漠然としたイメージを作り上げ、現在では誰もが知っている。また、年間1000万人の観光客がギョーザを食べに訪れるという仕組みが出来上がっている。おもてなしの街の浸透にも力を注いでいる。

(2) 視察の目的

可児市は、里芋や、菅刈りゴボウ、可児米、など色々取り組んでおり、新たなヒット商品地域ブランドを発掘しようと、市民は頑張っている。しかし、市民への浸透も他県への広がりも、これからが本番という状況である。

宇都宮は、ギョーザというブランドを持っている。これは何とかしなければという若手行政マンの危機感から議論が繰り広げられ、努力の末に生まれたものである。

アグリビジネス創出事業で生み出される過程と、農商工連携商品を学び、「売れない時代に物を売れ」のヒントを本市に持ち帰るため視察する。

(3) 視察の内容

制度の概要・・・うつのみや産の農産物などの農資源を活用した新商品・新サ



農業振興課より説明を受ける委員

サービスの創出に向けたプロジェクトについて、アグリネットワーク会員より提案を受け、アグリネットワーク事業として審査・認定するもの。認定されたプロジェクトについては、調査・分析・開発などの必要経費がアグリネットワークから支出される。

採択事業には、50万円から70万円で補助金を出す。予算額は10,800,800円。

プロジェクトの要件・・・うつのみや産の農作物などの農資源を核とした新しい商品やサービスの創出に係る事業であること。ただし、すでに、利益を上げている事業は対象外とする。将来において、成果が宇都宮市の産業振興に寄与するものであること。

アグリネットワーク	会員数	平成19年	65団体
		平成20年	98団体
プロジェクト申請	平成19年	9プロジェクト	
	平成20年	14プロジェクト	
	平成21年	12プロジェクト	
	※年平均12事業		

うつのみやアグリネットワーク会員交流会
主催：うつのみやアグリネットワーク、
宇都宮市、宇都宮商工会議所
農業者、加工業者、流通販売業者などの
連携による、宇都宮の農資源を活用した商品・サービスなどの開発を促進するため、会員同士の情報・意見の交換、交流の場として、会員交流会を開催している。



農業と食の施設“ろまんちっく村”を現地視察

(4) 質疑応答

Q：プロジェクト申請は、どう扱う？

A：運営委員会に審議してもらう前に、産業政策課と農業振興課でできるだけ上手くいくようアドバイスをして育てる。切り捨てない。

Q：運営委員会は、錚々たるメンバーで、熱が入っていると思われるが。

A：市の中核のメンバーだ。ホテルのオーナーもいる。

Q：農業の担い手は、育っているか？

A：後継者問題は、ある。昭和45年に線引きをして、市街地と市街化調整に分かれている。農業の高齢化に対処するため、若者のやる気を上げていく努力をしている。

Q：プロジェクト採択後に、市内に浸透させていく支援などのフォローは？

A：プロジェクトメンバーは、常に全国を見ている。行政のかかわりとしては、東京ビックサイト等の出展料を支払い、頑張ってこいと送り出している。

(5) 考察（まとめ）

地産地消や農作物の生産と消費を、運営委員会を設立して、熱心にブランドづくりに取り組んでいる。

200種の農産物のうち重点品目枠6品目として、なし・トマト・アスパラガス・にら・イチゴ・米を指定しており、6品目を活用して、ヒット商品を1社だけ製作するのではなく数社でつくる。

1つのプロジェクトチームを立ち上げ、行政がかなり踏み込んで育てようとしているところに感動した。

宇都宮市では、産業政策課と農業振興課が垣根を越えて、市場開拓など温かく育てるお手伝いをしており、本市も課の中に農業に詳しい人材がいるだけではなく、素人でもいいから、丁寧に素材と人のビジネスマッチングの可能性を探っていく積極的な人材が必要であると感じた。

危機感をもって地域の農林産業と食品産業をはじめとした様々な産業間の連携を促進し、地域の農産物、人材、技術その他資源を有効に結びつけ、新たな商品、販路、地域ブランド等の創出を通し可児市産の農産物の需要拡大と振興を図らねばならない。



可児市と宇都宮市の市旗

10月26日(月)～27日(火) 建設経済委員会 行政視察行程表

月日	行 程			視 察 先		調 査 事 項
10 月 26 日 (月)	<div>名鉄特急</div> <div>(集合) 新可児駅 — 西可児駅 — 名古屋駅 —</div> <div>6:50 7:01 7:10 7:56/8:20</div> <div>のぞみ108号 京急本線快特 東武特急 りょうもう11号</div> <div>品川駅 浅草駅 太田駅 …</div> <div>9:56/10:10 10:32/10:40 12:02</div> <div>東武伊勢崎線</div> <div>… (昼食) … 太田市視察 … 太田駅 —</div> <div>13:30~15:00 15:45</div> <div>JR 湘南新宿ライン</div> <div>久喜駅 宇都宮駅 … (宿泊先)</div> <div>16:44/16:54 17:44</div>			<div>群馬県太田市</div> <div>〒373-8718</div> <div>群馬県太田市浜町2番35号</div> <div>TEL 0276-47-1111(代)・0276-47-1806</div> <div>FAX 0276-47-1860</div> <div>議長：高橋 美博 様</div>		・太陽光発電システム導入と奨励金について
	<div>(宿泊先) … 宇都宮市視察 … (昼食) …</div> <div>8:40 9:00~11:00 11:45~12:45</div> <div>やまびこ52号 のぞみ117号</div> <div>宇都宮駅 東京駅 名古屋駅</div> <div>13:31 14:24/14:50 16:34/16:52</div> <div>名鉄 名鉄 名鉄</div> <div>犬山駅 西可児駅 新可児駅</div> <div>17:18/17:21 17:31 17:40</div>			<div>栃木県宇都宮市</div> <div>〒320-8540</div> <div>栃木県宇都宮市旭1丁目1-5</div> <div>TEL 028-632-2222(代)・028-632-2611</div> <div>FAX 028-632-2613</div> <div>議長：今井 昭男 様</div>		・アグリビジネス創出事業について
建設経済 委員会	◎ 渡辺 重造	○ 天羽 良明	議会事務局	角南 玲子	連絡先	〒509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地 岐阜県可児市議会事務局 TEL 0574-62-1111(代) 0574-61-1835(直通) FAX 0574-63-3972
	亀谷 光	山根 一男				
	小村 昌弘	川上 文浩				
	野呂 和久	◎委員長 ○副委員長				
		合計 8人				